心の輪13R

『ある日のバッターボックス』という資料を通して，**「『公平』とは何か？」**について考えました！

『公平』というのは，みんなが納得できて，全員が楽しむことのできることだと分かりました。筆者の思っている『公平』では，O 君は楽しめていなかった。しかし，少年たちの思っている『公平』では，O 君も楽しめていたので良かったと思いました。

『公平』とは，みんなが嫌な思いをせずに楽しめたりすることだということが分かった。たとえ少し平等じゃなくても，みんなが楽しめればいいと思った。

みんなが公平にすると，どんな人でもスポーツ等を楽しむことができることが分かった。公平に行動していくために，ルールを考えたり，そのルールを守ったりしていけたらいいなと思う。

『公平』とは，みんなが賛成し，みんなが納得していて，みんなが楽しめるようなことが『公平』だなと思いました。なので，これからもみんなが納得し合えるようなルールをつくっていけたらいいなと思います。

たとえ体が不自由でも，障害があったとしても，できることがあれば，他の子と一緒にやらせてあげた方が，その子の体にも心にもいいと思った。

差別をせず，みんなと同じように接することが『公平』だと思った。一人も嫌な気持ちにさせないこと。不自由な人をもっと不自由にさせないこと。それが大切だと思う。

『公平』とは，「全員が差別をしない」じゃなくて，一人一人が『公平』と思ったら，それは『公平』であり，一人一人が『不公平』と思ったら，それは『不公平』だと思う。だから，少年たちのやったことは，『公平』だと思う。

thinking 20

いっせーの、せーっ

「○～○世の中」の○～○に、言葉を入れなさいといわれれば、「冷たい」とか「住みにくい」というよくない言葉が浮かんできてしまうかもしれない。でも、世の中のいろいろな断面の中には、見知らぬ人たちがおりなす、けっこう温かい光景があるものだ。

いっせーの、せーっ

菅　美恵

三年前、仕事で地下鉄を利用したときのことです。初めての駅で、出口の階段を探していると「お願いします」と男性の声。

見ると、車イスの男性、その〝連れ〟らしき男性、駅員さんの三人がいました。

「私も……」と思って、ふと階段を見上げると、「エーッ！」。出口が見えないくらい長くて急な階段、吹き込む雨、おまけに通勤ラッシュ後で人通りも少なく「どうしよう」と思っていると、どこからか男性五、六人が集まってきました。

皆、余計なことも言わず「さあ、行きましょう」と車イスを持ち上げ、役に立たない私は、皆のかばんと傘を持ってついて行くだけ。皆、雨でスーツがびしょ濡れになりながらも、顔色一つ変えず一気に上って行きました。

車イスの男性の「ありがとうございました」の声で皆散り散りに。そして〝連れ〟だと思っていた男性も……。そう、彼も一通行人だったのです。

たとえ一人でも、力を借りる勇気と、黙って力を貸せる親切心に、私の心は明るく晴れていました。

（河出書房新社刊「小さな親切」運動本部編「涙が出るほどいい話　第四集」による）

『中学生の道徳１　自分を見つめる』（出版：あかつき）より引用